

104-300

問題文

50歳男性。身長175cm、体重80kg、血清クレアチニン1.5mg/dL。眼内炎、遷延する発熱、中心静脈カテーテル刺入部位の発赤及び圧痛があり、中心静脈カテーテル刺入部関連感染の疑いと診断された。

細菌感染に対する抗菌療法に反応せず、カテーテル刺入部の膿、末梢血培養で真菌陽性、血液検査でβ-D-グルカン陽性のため、カテーテルを抜去し、ホスフルコナゾールによる治療を開始したが、治療反応性が悪かった。

その後、刺入部位膿と血液の培養の結果、*Candida krusei* (カンジダ属真菌)が検出された。

問300

この患者の真菌感染症に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 表在性真菌感染症である。
2. ST(スルファメトキサゾール・トリメトプリム)合剤が有効である。
3. 日和見感染症と考えられる。
4. 鳥類の糞便中で増殖したものが、感染源となった可能性が高い。
5. 侵襲性カンジダ症の1つである。

問301

本症例に対して、アムホテリシンBリポソーム製剤を静脈内投与することとした。この薬剤の投与に関して適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 溶解液を加えて振とうし、沈殿物が認められた場合は、添付のフィルターでろ過する。
2. 添付のフィルターは、アルコールで消毒すれば再使用できる。
3. 15分以内で静脈内に点滴投与する。
4. 投与中あるいは投与後に発熱、悪寒、悪心等が発現しないかを観察する。
5. 投与期間中は、腎機能を定期的にモニターする。

解答

問300：3, 5問301：4, 5

解説

問300

選択肢 1 ですが

真菌感染症は、皮膚などの表在性感染症と、臓器等まで侵される深在性感染症に分類されます。血を採って培養したら菌がいた、ということなので「深在性」です。表在性ではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

ST 合剤 は葉酸合成阻害薬です。広いスペクトラムを有しますが、カンジダには用いられません。アムホテリシンB、フルコナゾール などにより治療します。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は妥当な記述です。

選択肢 4 ですが

鳥類の糞便中増殖が感染源といえば、クリプトコッカスがあげられます。カンジダに関する記述としては不適當と考えられます。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。

以上より、問 300 の正解は 3,5 です。

問301

選択肢 1 ですが

アムホテリシン B は溶けにくいいため、振とうし、沈殿物が認められた場合、きちんと溶けるまで激しく振盪します。添付のフィルターでろ過してしまうと、濃度不足になってしまいます。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

フィルターは汚染を避けるため、使用直前に開封、速やかに使用し、各々のバイアルについて新品を使用します。「アルコールで消毒すれば再使用できる」わけではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

1 日 1 回、1～2 時間以上かけて点滴静注します。(97-262) よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4,5 は妥当な記述です。

以上より、正解は 4,5 です。